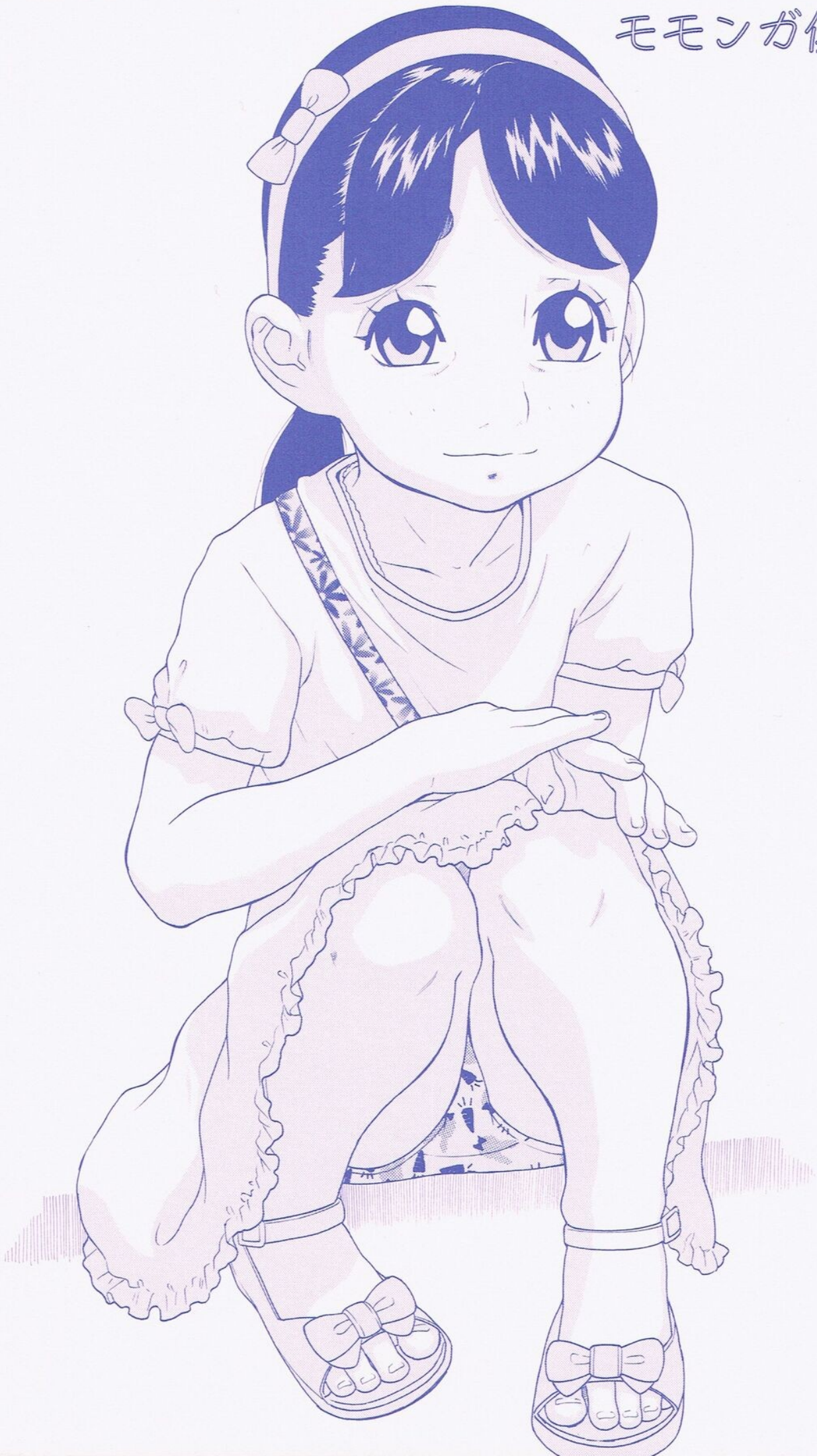


成人向



少女としての事



続・鍊金術



前回の続き・・・

ロリコン盗撮魔の下根木に無理矢理犯された千代乃はビデオ映像をネタに奴隷契約書にサインさせられる。下根木の肉奴隷となった千代乃は度々空き家に呼び出され性欲のはけ口にされ淫らな行為を続けるのであった。

八月某日・・・

夏休み、朝早くから空き家に呼び出された千代乃・・・下根木は千代乃を壁際に立たせるとスカートをたくし上げパンツを見せるよう指示する。

下根木はパンツの上から割れ目に沿って指を動かす時折鼻を近づけては息を吸い込むように匂いを嗅ぐ。スカートを押さえている千代乃の手に力が入る。

「すくはく すくはく 良い匂いだよ千代乃ちゃん」

「おやく、少しパンツが濡れてるじゃないか・・・ここ・・・おしっこかなあ？・・・想像して濡れたのかなあ？・・・」

下根木の言葉に頬を赤らめる千代乃

「後向いてお尻見せてよ・・・ほらっ・・・

柔らか過ぎず硬すぎず良い弾力だよ・・・」

「今度は千代乃ちゃんの番だよ・・・お前の大好きなおち○ぽだよ、ほらくちでキレイにして・・・」

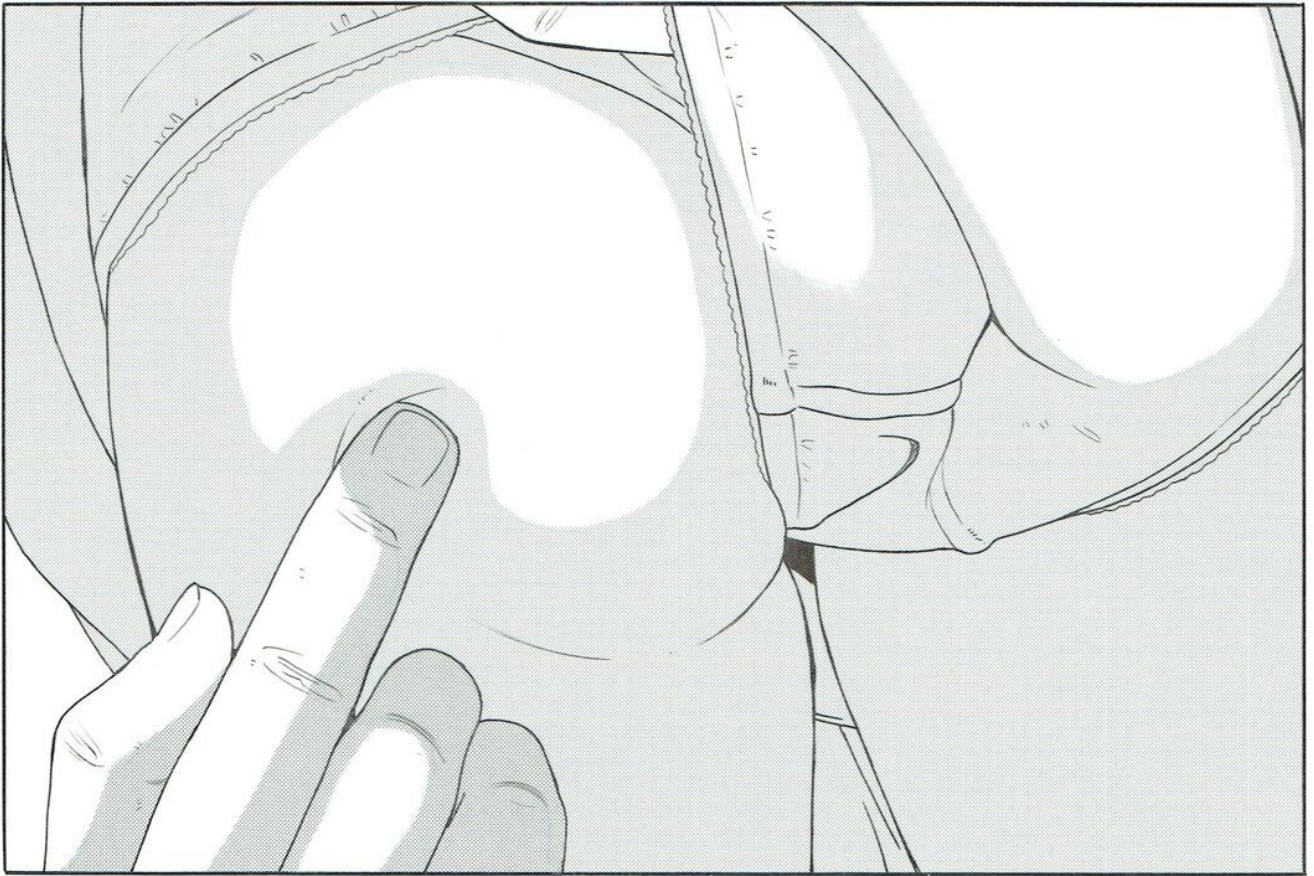
下根木は千代乃の小さなクチにいきり立ったち○ぽをほおばらせる

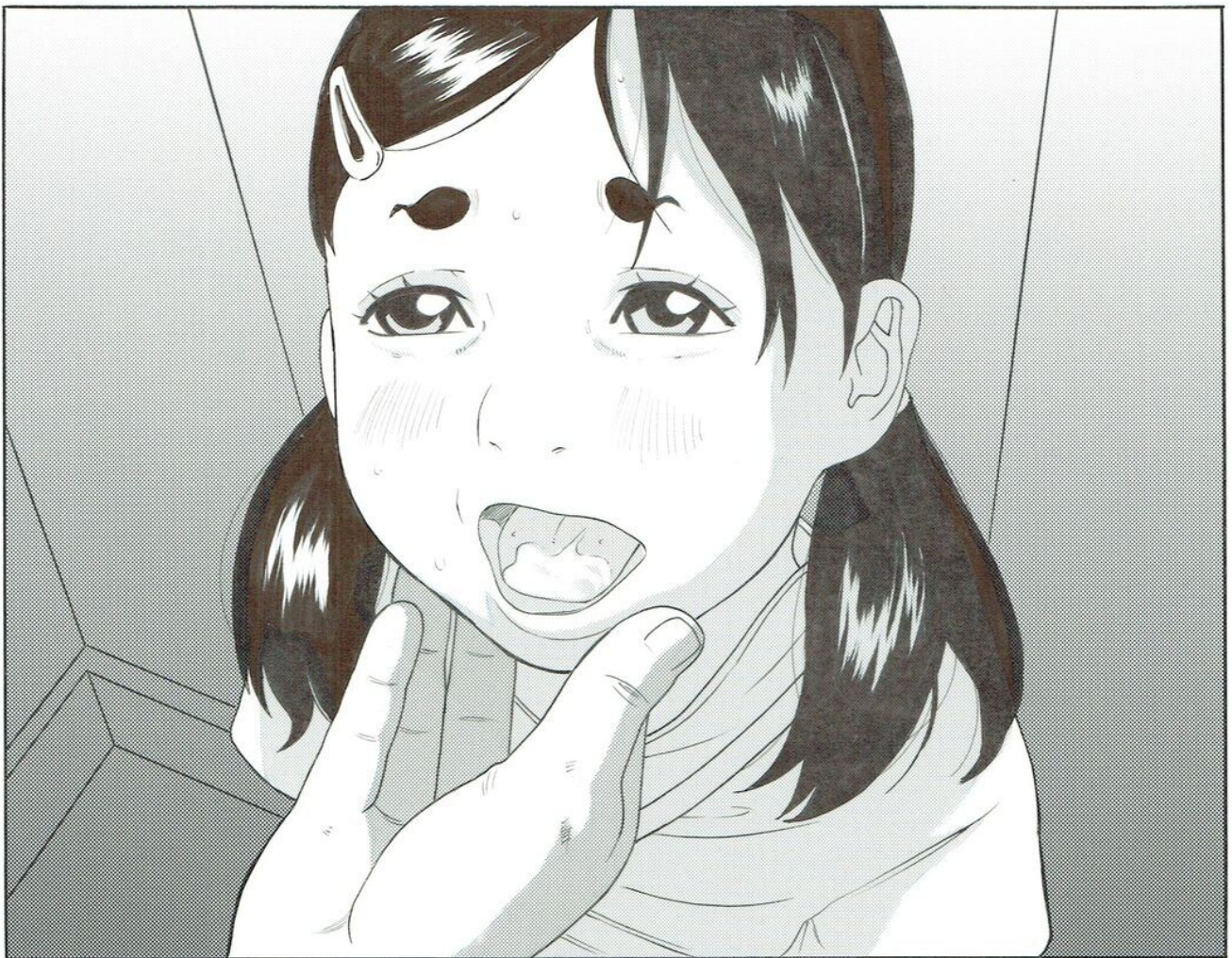
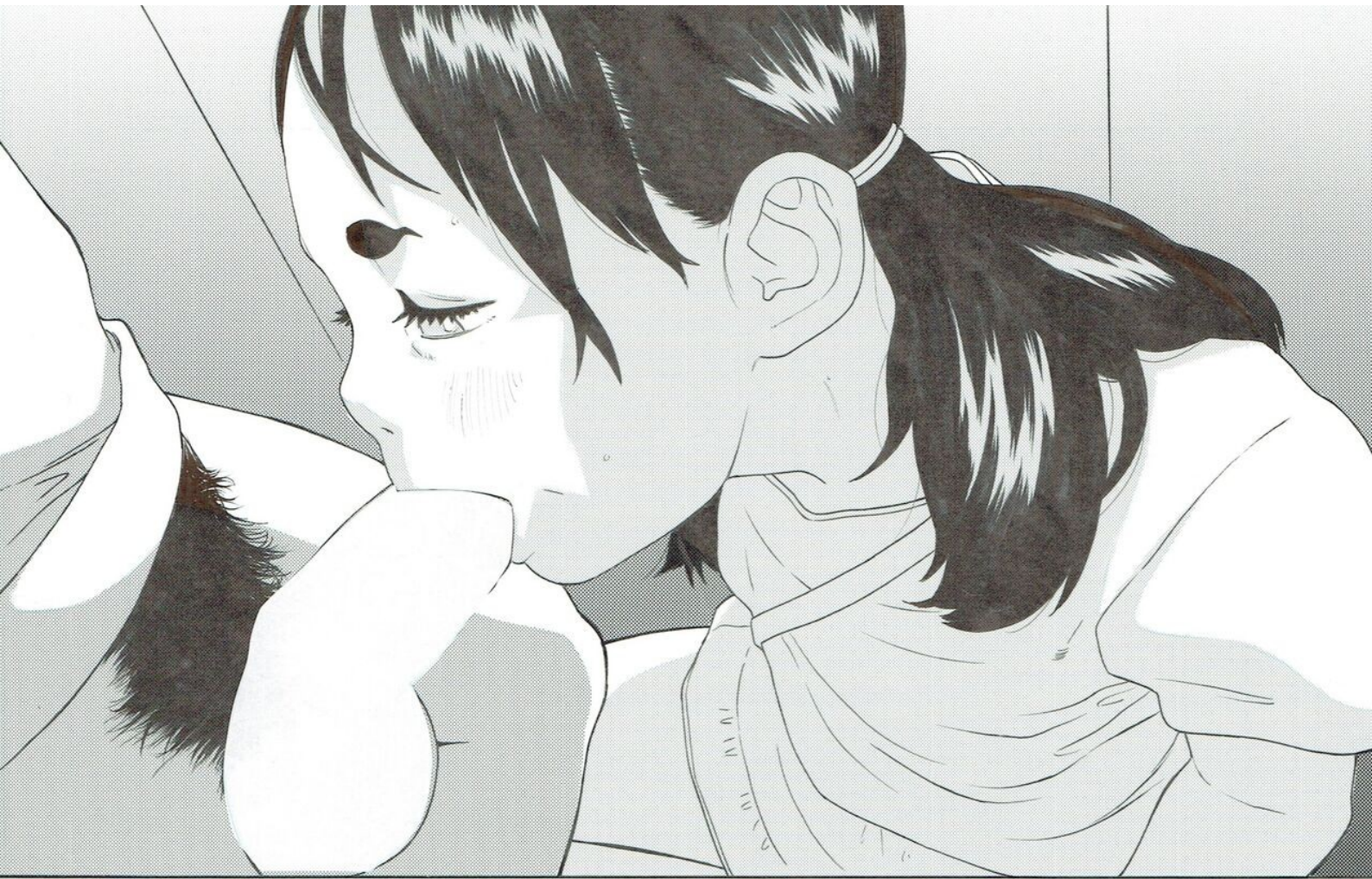
ぎこちなく動く舌の感触に下根木は思わずクチの中に少し出してしまふ

「ちよつと出ちゃったな・・・こぼさず飲み込むんだよ。残りは下のおくちに出してあげるよ」

そう言うち○ぽを裸にして性欲を満たす下根木であった。











次の呼び出し日

下根木はいつものように千代乃を犯し事が終わると以前から気になっていた事を千代乃に尋ねる

何故こんな空き家でオナニーをしていたのか・・・

千代乃が重い口を開き話し始める

千代乃の家は両親とも教師をしている、父親は大学教授、母親は高校教師、割とお堅い家庭で育ってきたのである

千代乃には兄が一人いるが大学生で寮住まいをしている為に一二度会うくらいで家では千代乃一人で過ごす事が多い

千代乃が家で宿題をしていた時、辞書を借りようと父親の書斎に足を踏み入れ本棚で探していると、本の奥に見知らぬビデオテープを発見する・・・

タイトルに「玲子調教」と書いてある。

千代乃は気になってこっそり父親の部屋でビデオを再生し見始める・・・するとそこには

二十代だろうか若き日の父と母の二人が映っていた。普段家では口数の少ない父と母が楽しそうにはしゃぐ姿を撮影したビデオのようであった。

続けて観ていると場面が変わり、その映像に千代乃は固まってしまった。

母は全裸で縛られ父親に犯されているセックスビデオだったのだ。

厳しい母親からは想像できないほど髪をふり乱し

淫猥な喘ぎ声を上げ淫らな肢体を汗ばむほど動かし

その姿に淫らな罵声を浴びせ道具や己の肉体で妻を調教する夫の姿

普通ならそんな映像をコドモが見たら気持ち悪がってしまうだろう、だが千代乃はそんな母親の姿を見て

「ママ・・・キレイ・・・」と呟いたそうである

その日から両親のいない時こっそりそのビデオを何度も観るようになって自分も身体を触るようになってオナニーを知ってしまったようだ

しかし、それで終わるわけもなくバイブで犯される母親のキモチイイと言う言葉に自分も使ってみたくなり

兄のパソコンから勝手にアダルトグッズの通販サイトにアクセスしバイブを購入

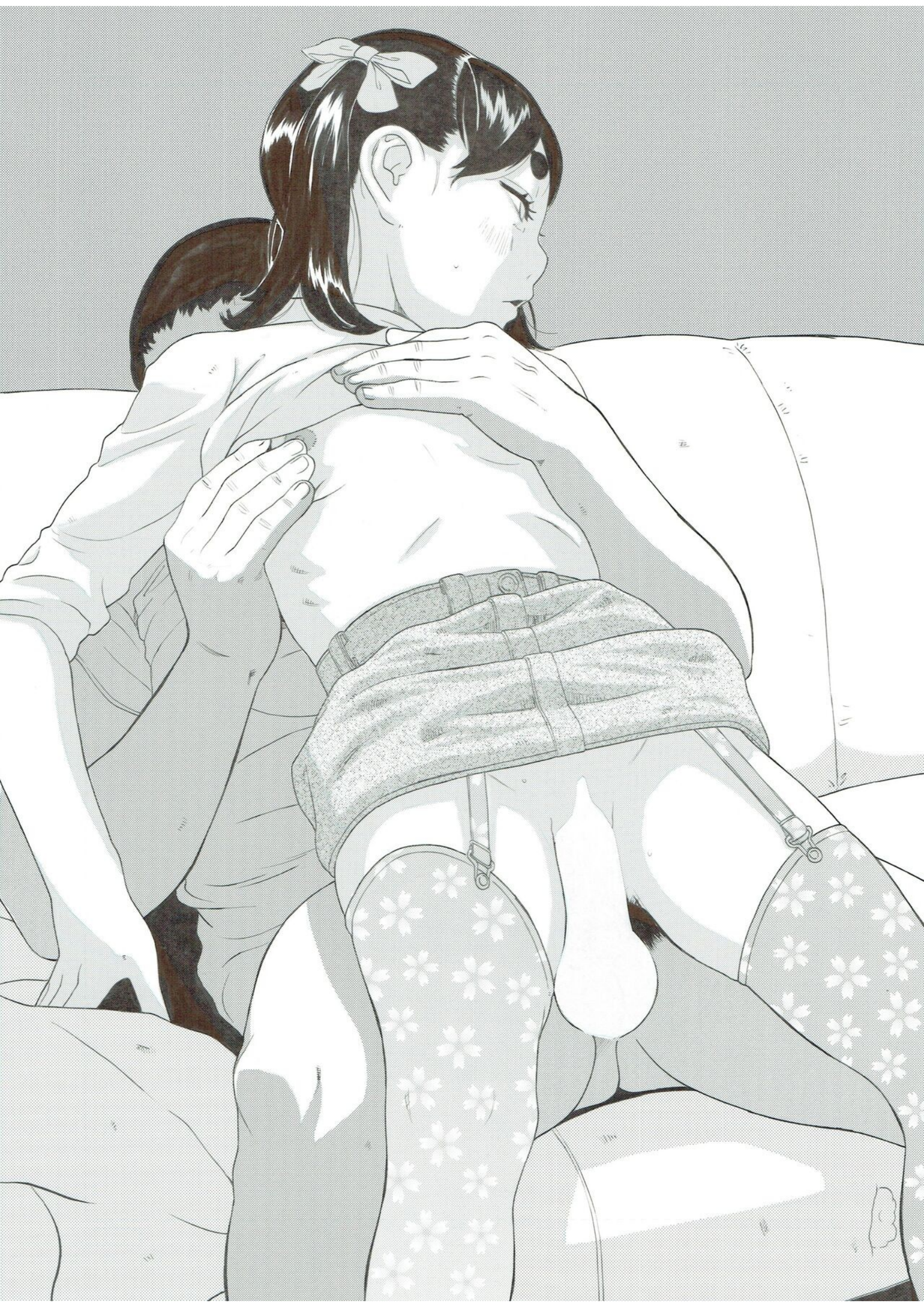
最初は動かして陰部にあてがうだけで楽しんで入れたみてくなくて自分で処女膜を破いたと下根木に話す。

この空き家は元々千代乃達家族が二年前まで住んでいた家で

(土地自体は千代乃の祖父の物) 今の家にはバイブを置いておけずここに隠してここで使うようになった

「それでオレに観られてこうなるわけかあ〜」

(すっごいお宝を発見しちゃったな!この親にしてこの子あり肉便女になるべくしてなったって感じだね、この娘は)



それから二ヶ月ほど経ったある日
下根木は誰かと連絡を取っていた

「あくお疲れ様です〜どーですかこの頃は何か良い事ありましたか？」
「ちよつと耳より話が・・・」

一週間後・・・

空き家前に下根木を含め三人の男が集まっていた

「下さん・・・なんかすごいのがあったって

電話で言ってみましたけど・・・ここですか？」

「森さん、谷さん・・・後に付いてきて下さい」

「ここ、勝手に入って良いんですか？」

「いいからいいから・・・こつちです」

下根木は盗撮仲間の森と谷を呼び出し空き家の中へと入って行く

「実はですね・・・見せたい物があるんですよ、ふふふ・・・」

下根木に連れられ二人が通された部屋にはソファがあり

シートが掛けられてる、シートに覆われたその中から

時折動く物体と小刻みなモーター音が聞こえてくる

「えっ、なんすか？・・・動いてますけど？」

「気になりますよね・・・お見せします！」

そう言う时下根木はシートをソファから外す、そこにある物に
森と谷の二人は目を疑った

全裸で縛られ猿ぐつわをされた少女がそこにいたのだ
股間にはバイブが入って動いている

「えっえっ・・・ちよつと待って下さいよ・・・下さん？」

「まじすか・・・これ？、拉致ったんですか？」

「さすがにこれはヤバイでしょ・・・うわあ」

下根木は二人に事の成り行きを話した

「え〜っ、マジですか、神じゃないですか、天国ですね」

「そんな美味しい話がこの世の中にあるなんて」

「この事は三人の秘密にしてもらえるなら千代乃は

自由に使って良いですよ」

「マジ少女じゃないですか」

「千代乃の穴は全部使えますよ、中出しもOKです」

「えっでも、妊娠とか出来る年でしょ、大丈夫なんすか？」

「一応薬飲ませてるんで問題ないっすよ」

「千代乃ちゃん・・・よろしくね〜」

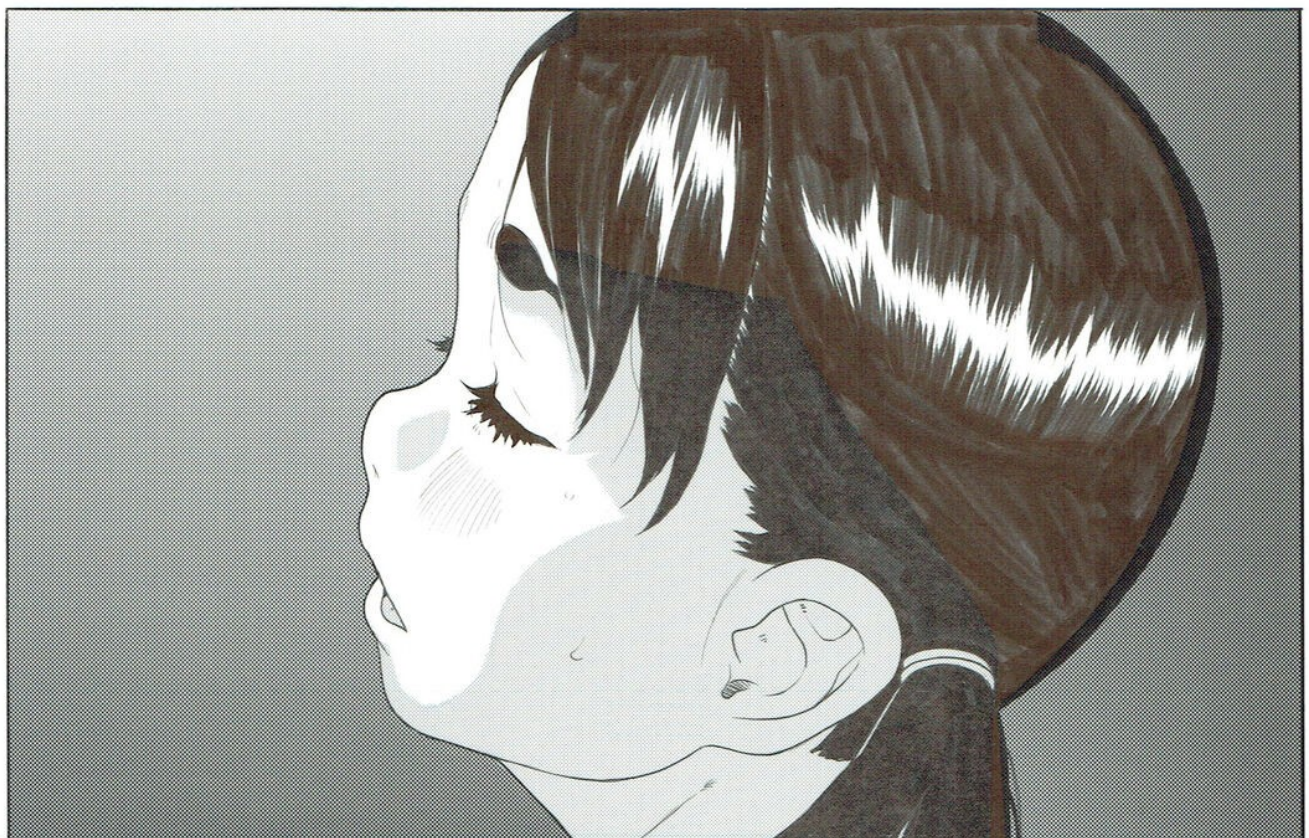
不安と期待が入り交じった表情の千代乃をよそに

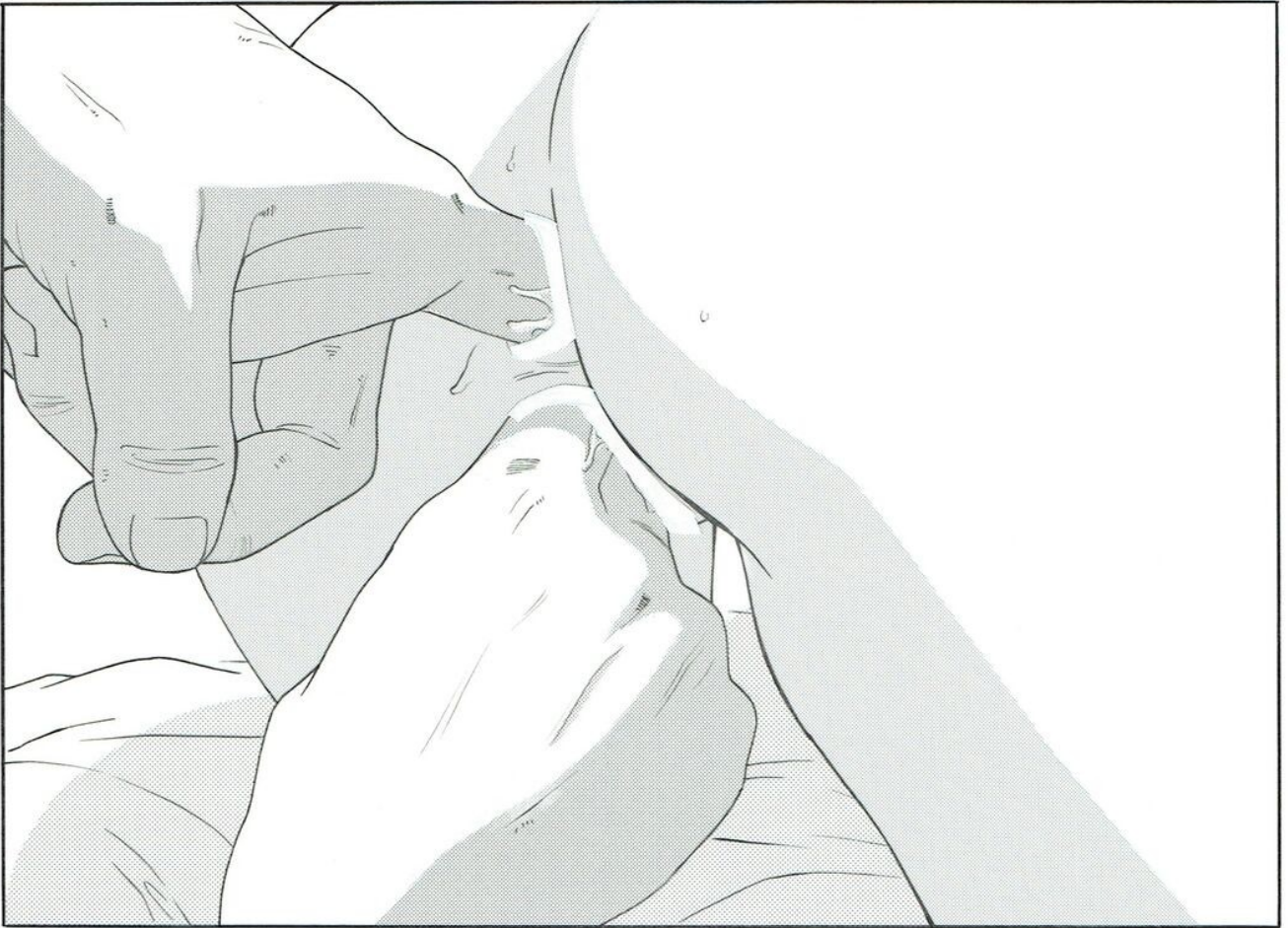
男達の淫らな宴が始まる



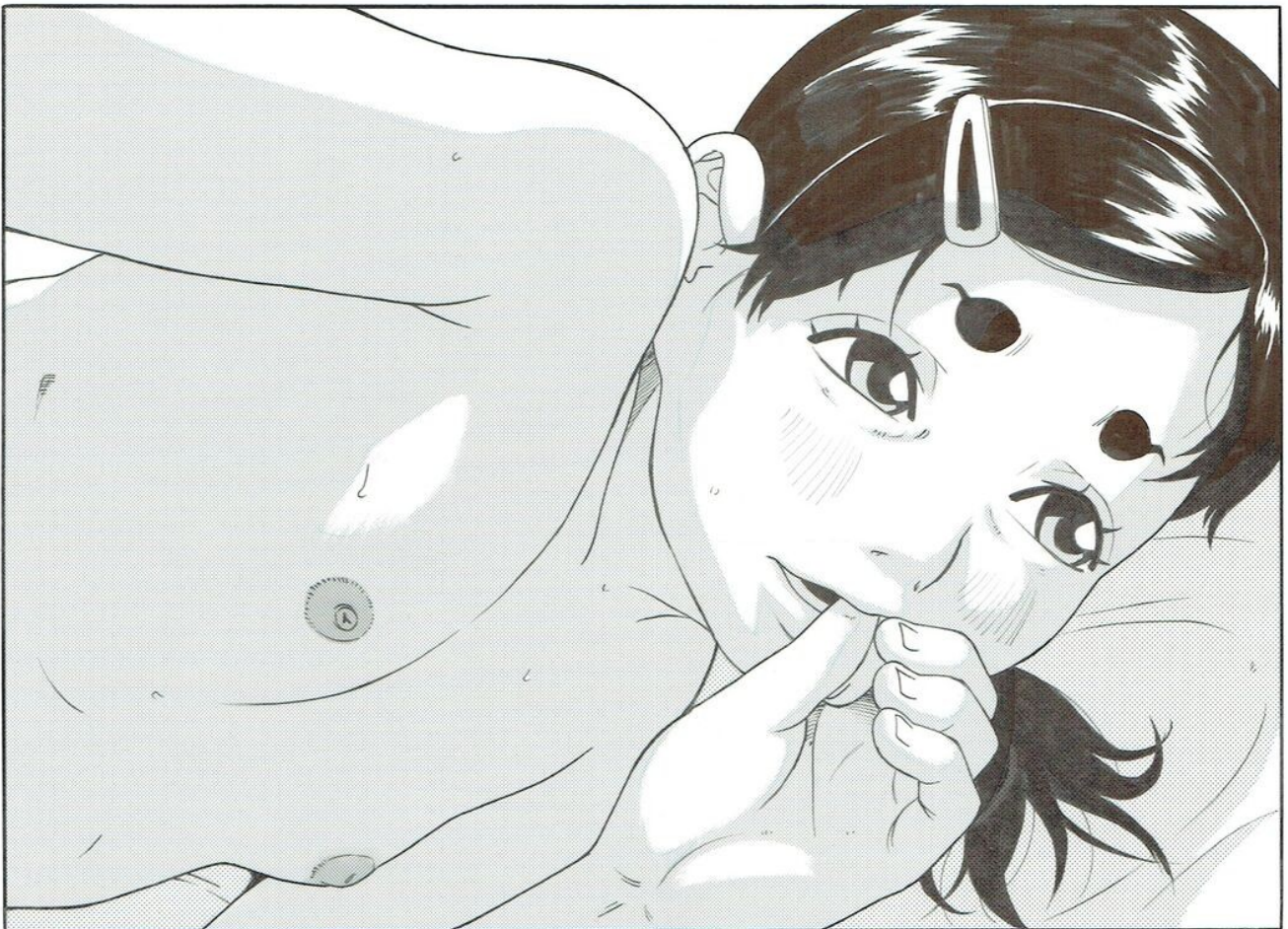


「ちよのんはバイブが大好きなんだね～」





「結構奥まで入るもんだね～後も前も 気持ちイイ？」





「ほらほら～休んでないで・・・こっちもこっちも～」





「あ〜あ〜っ すっげ〜しまる 気持ちイイ ちよのん」







「おしりが・・・気持ちイイです ああっ イくら～」



学校が休みの日は決まって千代乃を呼び出し、朝から日が暮れるまで三人で千代乃を代わる代わる陵辱した穴という穴に精液を流し込み、時にダルマのように動けないよう縛りバイブを八メ電池が切れるまで動かし続け放置

波のように襲う快樂に何度も絶頂を迎える千代乃

「ほらっ イケっ イケっ・・・オレもイクぞ！」

「うう・・・まっまた・・・イクっ イクっ」

千代乃はビクンビクンと腰を痙攣させ、ため息を漏らす男達の満足がいく頃には千代乃は足も立たないほどふらふらで憔悴しきっていた。

「下さん、千代乃一人じゃきつくくないですか？」

「まあ、若いと言っても限界があるからねえ・・・」

「一度二十四時間調教してみたいんですよね」

「谷さん、鬼畜ですな！」

「森さんこそ一日何回イカせられるか試してみたいって言うてたじゃないですか・・・」

「千代乃のイった時の表情がたまらんですわ！」

頬が紅潮し半目で視線が定まらず、クチを半開きで・・・くう！」

「三人で共用してるから独占はなかなかねえ」

「もう一人くらい肉便器が欲しいですね」

「・・・もう一人・・・ねえ。」

下根木はそう言う腕を組んで考え始めた

「取り敢えず千代乃の身体が我々無しで生活できないよう膣壁に味を、DNAを刷り込んでやりましょう」

「・・・もう一人・・・ねえ　フッフッ」





「千代乃の中で森さんのと擦れて、すっげ〜っす！」





「千代乃ちゃんのお口には何本入るかな～」





「ねえねえ、千代乃ちゃん　ここにいるの？」

「いるよ、チビって言うの　すっごいかわいいよ」

「ここ、勝手に入って良いの？」

「あつ　うん　ここ昔住んでた家だし、うちの土地だから」

「そうなんだあ　何処かな、チビちゃんは　チビく」

千代乃はクラスメイトで仲の良い「月森あかり」を空き家に連れてくる

「あかりちゃん・・・こっちこっち！　こっちにいたよ」

「えーっ、どこどこく」

あかりが部屋に入ろうとした時不意に後から、一瞬身体が痺れ意識を失いその場に倒れた

「・・・かりちゃ・・・　はあ　はあ　　あかり　ちゃ・・・ん」

朦朧とした意識の中で自分の名前を呼ぶ声が耳元でする

「あれ・・・千代乃ちゃん？・・・わたし・・・どうしたの・・・」

「あかりちゃん・・・んんっ　　ああ気持ちいいよく」

あかりが目を覚ます

「(あれ・・・動けない・・・なに？なに・・・これ)」

あかりは身動きが取れず口もふさがれて声も出せない

状況が飲み込めないまま自分の名を呼ぶ声のする方を見るとそこには裸で身体を動かしている千代乃がいた

「あかりちゃん・・・すごいよ、今あたしセックスしてるんだよ
すごく・・・気持ちいいよ、おんぼが入ってるんだよ」

「・・・(なに？なにこれ)」

「初めましてく月森あかりちゃん」

「あかりちゃんかあ・・・じゃあ、あかりんだね」

「さすが千代乃だ、可愛い子には可愛い子の友達がいるんだね」
その声に自分を見下ろしてる男達に気づく



「千代乃はねオジさんたちの肉便女奴隷なんだよ」

「三人で千代乃一人をこうやってセックスで調教してるんだけど千代乃の身体が保たなくてね、オジさんたち強壮だから」

「もう一人肉便女になってくれる女の子、つれて来てもらっただ」

「そう・わかる あかりちゃんはその二人目なんだよ」

「千代乃ちゃんはセックス大好きでちん○が大好きなんだけど

あかりちゃんはどくかなあ？（笑）」

「大丈夫だよオジさんたちが徹底的にチ○ポ大好き肉便器に改造してあげるからね」

「千代乃同様オジさんたちから離れられない身体にしちゃうからね」

獲物を手に入れ舌擦りするケモノのような男達の眼差しがあかりを貫く、底知れぬ不安に身体を硬直させるあかりであった

完



お尻の事

アダルトビデオなどで良くアナルセックスを多用する作品がありますが、女性はお尻に入れられて気持ちいいのか？と疑問がわくと思いますが、実際肛門には性感帯があります。女性の場合、クリトリスと膣内のクリトリスの根っこの部分(所謂Gスポット)とその反対側肛門内の一部分。そこが刺激されると感じてしまうというわけですね。

ちなみにアナルセックスして極太のディルドや腕なんかを入れられる女性、肛門が開いちゃってますが…便秘とかするんですかね？



アダルトビデオ

割と良く観ます(参考資料になるのて)

加賀美しゆな・跡美しゆり
あへみかこ・神田るみ
椎奈さら・七沢みあ(新人)
疑似ロリはこの子等が
おすすめです!

ミニマム(低身長・疑似ロリの
女優を使って作品を供給している
メーカー)9月頃から
作品の供給が滞っている
つぶれるのかしらん?



あとがき

この作品は1年前に発行した「少女としたい10の事」錬金術の続編です。やっと完結しました。時間がかかってしまいました、実を言えば作画自体（90%）は1年前に終わっていたのですが肩の不調もあり他の作品も描き始めた為手つかずに・・・物語の終え方が決まっていなかったのもありました。これ以上長引かせると忘れられてしまいそうなので。取り敢えずはこれで形になりました。

夏に血管の検査をしたんですが血管年齢が実年齢より10歳くらい若いと医者にうらやましがられました（笑）

おくづけ

タイトル	「少女としたい10の事2」
発行年月日	2017年12月31日（初）
発行	モモンガ倶楽部
制作著作	林原ひかり
サークル連絡先	okosama@par.odn.ne.jp
印刷	（有）ねこのしっぽ

この作品に収められている全てのイラスト・絵の著作権は林原ひかり及びモモンガ倶楽部が所有しています。著作権者に無断で本作品の転載・コピー・改変・データ化しWEB等での公開及び第三者へ営利目的の有無を問わず転売する行為を全て固く禁じます。本作品は成人向けを主張し販売しているため未成年者への販売は許可していません、閲覧も同様に禁止しています。WEB上にあるサイトで林原ひかりの作品をバナー等に無断使用している海外サイトがありますが著作者は利用許可を出していません、また著作者と一切関係はありません。閲覧に際して問題が起きても当方には責務がありませんのでご承知ください。